

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-------------------|------------|--|
| 事業所番号 | 1291100095 | | |
| 法人名 | 有限会社 かつみ | | |
| 事業所名 | グループホーム 時の村18号館 | | |
| 所在地 | 千葉県木更津市万石字中道654-2 | | |
| 自己評価作成日 | 令和6年2月21日 | 評価結果市町村受理日 | |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://kaigo.homes.co.jp/facility/basic/f=44886/ |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|--------------------|--|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人NPO共生 | | |
| 所在地 | 千葉県習志野市東習志野3-11-15 | | |
| 訪問調査日 | 令和6年3月5日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

近隣は静かな住宅街で車の通りも少ないので利用者様と散歩に出かけたり、室内に広い廊下があるので、歩行の練習をしたり、食事の下ごしらえを分担していただいたり食器の下膳等、出来る事をお願いしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

洗濯物のたたみ仕事や食事の時の手伝いなど、入居者自身で自発的にできることをやっていただく仕組みを作って、過去の生活の延長となる環境を作り出して、入居者の自己肯定感を創出している。木更津市内にご家族がいる入居者が多く、入居者が必要としているものを持ってきてもらったり、病院への付き添いを頼んだりして、施設と家族との連携に努めている。毎月の職員会議の中で、年間のテーマを決めて研修を行っており、また、職員だけの委員会の形で勉強会も行っていて、知識やスキルの向上に努めている。風呂の時間や回数に大きな制限を設けることなく、利用者の満足につながるようにしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|--|--|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 会議等を利用し、「個人を尊重し安全で安心できる、楽しく美しい生活の場を地域との連携の中で和の心をもって確立する」法人理念を具体化したもの、理念に基づく行動目標を伝え、事業所理念をリビングにも張り出し掲示し職員間で共有できるように努めている。 | 過去の積み重ねてきた経験を活かし集大成された「グループホーム あんしん木更津」が独自作成している。介護マニュアルに、事業所独自の理念を掲載しており、リビングにも張り出して、職員での共有と浸透を図っている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している | 自治会に加入をし、回覧板等で情報の共有をし地域活動に参加している。 | 自治会に加入して、自治会からのお知らせの資料を回覧板とは別に受領していて、情報収集に努めている。 これにより町内の清掃活動にも参加して交流を図っている。 | ホームからの情報も自治会の回覧に載せて、ホームからの情報発信いただくような取り組みも期待する。 |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 散歩や個別での外出機会を設け、ホーム内だけの閉ざされた生活にならないように心がけている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 以前はコロナ渦の影響もあり、書面での報告もあったが、現在は対面で2か月に1回、開催している。地域包括・市役所・民生委員・ご家族と意見交換をし、サービス向上に努めている。 | 2か月に1回の運営推進会議には、本社の担当のみならず、行政の方、地元の民生委員の方やご家族にも参加していただき活発な情報交換をしている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 地域包括センターと連絡を取り合い情報交換をしている。市福祉課等、こまめに連絡を取り合い参考意見等の実践に努めている。 | 施設長が木更津市が主催する介護関係の勉強会に出席して、ホームに有益なトレンディな情報を仕入れるとともに、市との人脈形成を行っている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 年に2回本社より講師を呼び研修を行っている。開催後は、議事録にまとめ職員に共有を図っている。理解を深め、身体拘束をしない介護に取り組んでいる。 | 毎週のケア会議で議論して取り組んでいる。この中で、身体拘束に関する研修や虐待防止の研修も講師によるリアルなセミナー形式や動画視聴の形で実施している。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 施設内研修として、資料を用い、虐待とは何か理解を深め、認知症に対する理解、人としての理解を随時話合える環境づくりに努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 施設内研修として、現状権利擁護が必要とされる背景や権利侵害等、成年後見人について学び、得た知識を活用できるように努めている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 市福祉課、相談員に2カ月に1回依頼している。ケアプラン更新時に要望等言える機会を設けている。意見を伝えやすいような声掛けを心がけている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | コロナ渦や遠方に住んでいる方などは電話にて情報交換になっているが、ケアプラン更新時、要望対面できるご家族にはホームに出向いて意見を取り入れている。 | 入居者のご家族が木更津市内の方が多く、LINEやSNSを使わずに、電話を使った形での家族等との情報交換が主体になっている。 ケア会議や職員会議で、職員が日々の活動で把握した利用者や家族などの意見への議論が行われている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 運営している上で、原則となることについては説明し理解をして頂けるようにしている。意見や提案などについては、その都度聞いている。月に一度、本社社員も参加し意見などを聞く機会を設けている。 | 職員会議を開いて、必要な情報の周知とレクの分担や早番などの日程調整をしている。また、本社の取締役も参加する「館会議」も開催して職員の意見や提案を行う取り組みも実施している。 | 人材不足になかでの職員の負担軽減のために、職員会議で職員の意見をもとに、過剰サービスではない「個別の必要かつ十分なサービス」を、検討いただくことを期待する。 |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 概ね半年に一度人事考課を行い、職員の実績を具体的に評価する。また、本人にも自己評価を行ってもらい、本人の課題や努力しているところを把握した上で個々の目標設定を行えるようにしている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 必要となる共通の知識や技術については、会議やその他機会を設け身につけてもらえる取り組みを行っている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 他の事業所と交流する機会を作り、情報交換を行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 初回面接時に、希望や不安なことをお聞きし受け止めている。入所後は環境が大きく変化するため、多く関われる環境をつくり、それらの解消に努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入所申し込み時点で、ご家族が抱えている不安や悩み、施設に対しての考え、入所後の不安等、可能な限り理解し、どのように支援していくか共に考えていける関係の構築に努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 入所前後において随時ヒヤリングを行い、必要とされる支援を提供できるよう体制を整えられるようにしている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 認知症→人知症、対人援助職という意識をもち、「人」が生活を営む姿を支えることが、グループホーム職員の役割ということを共通の認識とできるように努め、入居者様とその有する能力に応じ、自立した日常生活が営むことのできるよう支援している。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 入所申し込み時点から、共に考えていける関係性を築けるように努め、ご家族の状況を踏まえた上で、協力していただける関係となるようにしている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | コロナ渦時は制限もあったが、現在は制限はあるものの戻りつつあり親戚やご家族の面会等の関係の継続は多くみられる。通院に行ったり、食事に行ったり、ご家族対応により継続している。 | 病院への付き添いや入居者が必要なものを届けてもらう機会をとらえて、ご家族に入居者を連れ出してもらう機会を増やしている。また、なじみの場所として釣り堀やドイツ村へ連れていくことなどで入居者のリフレッシュを図っている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 共同生活において、食事づくり、洗濯等、個々にできる役割を大事にし、支え合う瞬間を大切にしたい支援が行えるような環境が整えられるように意識した声かけをしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退所されたご家族との連絡を保っている。退所後も、相談しやすい環境に努めている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 一人ひとりの思い出や希望に関心を持ち、本人主体となれるような関わりがもてるように努めている。 | 利用者の一人は、自宅で犬と一緒に暮らしていた経験から、犬を懐かしんでいる。現在は犬の縫いぐるみを大切にしている。過去に食堂で調理をしていた入には、台所でモヤシの芽を摘む手伝いを喜んで行ってもらっている。このように、それぞれの思いや意向を丁寧に把握し、適切なサポートを提供するようにしている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 初期段階だけではなく、継続的に日々の生活の中、情報収集を行うように努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 「認知症」、一人一人違うことを念頭に置き、日々の過ごし方は自分で決められるように、説明→同意→実行と無理強いのないような生活支援に努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 担当者を決め、今必要なニーズの把握と、日々の申し送りでの情報の共有、その情報をもとに介護計画を作成している。 | その人のできることは何かを探し出し、ケアプランに展開することを基本に考えている。また、申送りの中から出た課題を、毎月のケア会議で検討し、ケアプランを変更していくこともある。例えば、排泄管理表から判断し、布パンからリハパンへの切り替えたこともある。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 大事な部分については赤字や青字で分け工夫している。記録の内容や書き方については話し合い、よりよいものになるように努めている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 本人のニーズに対応できるよう外出の機会を多く設けたり、今後は、地域のイベントの参加を検討していきたい。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | ご本人やご家族の意向をもとに資源の活用に心がけている。今後も継続できるように努めていきたい。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 現在は提携医院と連携をとり対応している旨伝え理解をえているが、引き続きかかりつけ医院を希望される方については、ご家族対応にて継続して受診を行なっている。 | 内科は提携医による月2回の訪問診療を基本としているが、入居前の内科のかかりつけ医にも訪問診療を依頼している人もいる。入居前からの掛かりつけ医とホームの提携医と連携を取る体制は整っている。その他、精神科や眼科への通院は家族が連れて行っている。また、本社からの看護師の訪問や月2回の訪問歯科も行われており、健康管理に努めている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 受診前後の状態の変化や相談したい内容についてまとめ、指示、助言等共有できるようにしている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 病院の医師、看護師、相談員と随時確認を行いながら、円滑に退院までの流れを作れるようにしている。また、入院中も、ご家族との連絡や面会を心がけている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入所契約時に今後どのような形を望んでいるのか確認した上で、重度化及び見取りに関する指針について説明を行い、方向性を共有できるようにしている。また、看取りへの対応が出来るよう今年度職員への研修を行っている。 | 今年度は1件の看取り実績があった。生活保護を受けていた方で、後見人と連絡を取り合いながらの対応であった。看取り介護が必要な場合、医師の指示を仰ぎながらホーム内で行えるサポートすることになる。職員に周知するため、看取り研修やベテラン職員による指導が行われている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 職員同士の申し送り等流れの連携はある程度できている。応急手当や初期手当の訓練は定期的に行っているが、今後も継続して学んでいく必要があり、全職員が冷静に対応できるようにしていきたい。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年に2回の火災報知器点検時、火災報知器の取り扱いの訓練を実地している。地震に関しては避難場所の確認等行っている。6月に火災想定での消防立ち合いで行い消火訓練も行った。12月には夜間想定火災訓練を行い夜勤者1名で避難対応を行った。 | 6月に消防署立会いの下で、日中を想定した火災訓練が実施され、利用者は外の駐車場まで避難した。12月に夕方から夜間を想定した訓練が行われ、夜勤職員一人に対応するシナリオで実施された。他の職員も見学し、気づいた点を話し合う機会となった。本社から配布される予定の事業継続計画(BCP)について、その後の対応を検討することになっている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|---|-------------------|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 話し方、対応は十分に配慮していくよう、職員研修時には注意を促す。日々の生活の中で関わりを持つ意識をしている。 | 認知症⇒人知症、対人援助職という意識の下、「人」が生活を営む姿を支えることが役割と考え、日々接している。そのためにも、名前は「さん」付けで目線を合わせ、相手を敬う気持ちで接している。耳の遠い人には、傍で聞きやすい方の耳側から話しかけるよう心掛けています。 | | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 声かけ・傾聴により、本人の思い・気持ちを知る機会を作り、希望を表現できるような関わりを意識している。 | | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 個人のペースに合わせた生活をしていただけのように、声かけをして気持ちの把握に努める。 | | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 | 髭剃りや整容、洋服選びは本人と共に行っている。 | | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 下膳・片付けなど、可能な限り一緒に行っている。時にはレクリエーションで食事や手作りおやつ計画をし職員も一緒に会話をしながら食事を行うことで楽しみになるようにしている。 | 利用者には女性が多いことから、入居前から普通にやっていた食事の下膳・片付けなどは当たり前のことと考えている。食事のお手伝いは普通に行っている生活行動として捉えられている。食べることの楽しみの一つとして、月1回、4種類のメニューから選んでもらう「お楽しみメニュー」が企画され、季節に因んだ食事も提供されている。先日は、「食べたいもの何かある？」と尋ねると、ハンバーガーが食べたいという声が上がリ、近くのお店でハンバーガーを買ってきて皆で食べた。 | | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 水分に関しては個々で摂取量を計算して進めている。食事に関しても、個々の食べる量もあり、バランスよく摂取できるように工夫している。 | | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後、口腔ケアを行い、清潔保持に努めている。また、訪問歯科と連携し往診・相談、また職員に対しケアの研修を行っていただいている。 | | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 個別に排泄の間隔、(2, 3時間おきに誘導) 常時オムツ使用は避けるようにして、可能な限りトイレでの排泄が行えるように取り組んでいる。 | トイレでの排泄は、人にとって自然な形のものであるという考えのもと、「トイレに座ることを」基本原則に置いている。パソコンで排泄管理表に入力しながら、その人のトイレの時間間隔を把握し、トイレ誘導を行うことになっている。排泄パターンを把握することで、昼間はオムツからリハンパンに切り替えて日中を過ごしている人もいる。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 日々の生活の中で体を動かしてもらえるような支援を意識している。意識して飲食物の提供にも心がけている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 日中はいつでも入浴できる環境になっている。時間の決まりもなく、自然と個々の入浴時間が決まっている。拒否の強い方に対しては時間や職員を変えて対応している。 | 入浴管理表をもとにその日の朝、午前か午後の入浴かを本人に決めてもらうようにしている。入浴中、職員は安全確保の観点から利用者の動きを観察するようにしている。入浴剤を使って楽しむことや、歌の好きな人はお風呂の中で木更津甚句や証城寺を歌い出すこともある。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 一人一人の状態や休息を希望された場合は、時間にとらわれず休んでいただけるようにしている。就寝・起床時間は決めていない。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 個別に処方箋の管理をしている。薬の変更はケース記録に記入と口頭での申し送りを行っている。状態の観察を細かく行えるように努めている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 個々の得意なこと、できることを、進んで行っている。継続して行っていけるように努めたい。新たに探せる関係を作って行きたい。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 散歩は日常的に行い、季節毎に、季節を感じる支援を行っている。ご家族や近隣の方々と協力しあえるような関係を築き、今後の活動に活かしたい。 | 殆どの利用者がホーム周辺を約5分の散歩をしている。外で隣家の人と顔を合わせると、隣家で飼っている猫の話題で和やかな会話が生まれている。遠くまでの外出はないが、ドライブで近くの桜並木を訪れて桜を楽しむことがあった。家族がドイツ村のパスポートを持っているため、利用者を連れ出してドイツ村で楽しむケースもある。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | ご本人の能力、希望に応じ、ご家族対応で管理をしてもらっている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 職員の介助にて自由にやり取りをできる。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 掃除は職員と一緒にいき清潔保持に努めている。温度・湿度、換気などを行い、心地よく過ごせるように工夫している。 | リビングや廊下では職員と一緒に掃き掃除を行っている。掃除を終えた後、皆が達成感を感じているようだ。また、一部の利用者は自分もホームの職員と思い、自立的に掃除や片付け、男性利用者の面倒を見るケースも見受けられる。窓際にテーブルを設置し、隣家に咲く花を眺めながら季節の変化を楽しんでいることもしばしばである。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 外の景色が見える場所にテーブルと椅子を設置し、気の合う利用者同士が関わりがもてるようにしている。居室での静養も大切にしている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 本人の慣れ親しんだ品や、家族との写真など心穏やかに過ごせるように配慮している。 | 慣れ親しんだ物を持ち込むことで、入居前からの生活環境を崩さないよう心掛けている。持ち込んだ写真を見て職員が問い掛けをすると、利用者は生き生きと話し始める。例えば、「これ、お孫さん?」「これは、どんな時の写真ですか」といった質問をしている。居室内で日中過ごす人は寝ていることが多いため、職員は確認のために長時間一人でいる利用者の部屋を訪れている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 個々にリスクが違うので、構造上、個々のリスクがある部分を理解しつつ、自立した生活を送れるよう心がけている。 | | |